

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果の分析から

## 子どもたちに育てたい「学びの姿」について

真鶴町教育委員会

真鶴町では町の子どもたちの学習の理解度や学習に対する意識、生活習慣等（総じて「学力」）を把握し、子どもたちへの教育指導の在り方や学習状況の改善等に役立てることを目的として、全国学力・学習状況調査の結果の分析を実施しております。

そこで、今年度も真鶴町教育委員会では、まなづる小学校・真鶴中学校とともに検証委員会を設置し、標記調査を中心に真鶴町の子どもたちの学習状況について分析をしました。その分析から見えてきた真鶴の子どもたちの良さと課題、課題を改善するための手立て等を保護者の皆様にお伝えいたします。

## 令和6年度全国学力・学習状況調査の分析から見えた、 真鶴の子どもたちの特徴的な良さと課題について

調査実施日：令和6年4月18日 調査対象学年：小学校 6年生  
中学校 3年生

### 今年度の調査でよくできたところ

小学校・中学校共通	
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"><li>・「いじめは、どんなことがあってもいけない」と考えています。</li><li>・人の役に立つ人間になりたいと考えています。</li><li>・将来の夢や目標をもっている割合が高いです。</li><li>・コンピュータなどのICT機器を活用した学習が定着してきています。</li></ul>
小学校	
国語	<ul style="list-style-type: none"><li>・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができていました。</li></ul>

算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直方体の見取図について理解し、かくことができていました。</li> <li>・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができていました。</li> </ul>
中学校	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報の扱い方に関する事項」では、意見と根拠・具体と抽象など、情報と情報との関係について理解することができていました。</li> <li>・必要に応じて質問しながら話の内容を捉えたり、話合いの話題や展開を捉えたりしながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができていました。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができていました。</li> <li>・「関数」の領域では、数学的に表現したことを事象に即して解釈することがよくできていました。</li> </ul>

### 今年度の特徴的な課題

小学校	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を文の中で適切に使うこと。</li> <li>・文の中における主語と述語との関係を捉えること。</li> <li>・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。</li> <li>・指定された条件（心に残ったところとその理由、本文から言葉や文を取り上げる、文字数）に合わせて文章を書くこと。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文を正しく読み、式に表すこと。</li> <li>・数量の関係を整理するために図に表して考えること。</li> <li>・速さの意味について理解すること。</li> <li>・目的に応じて数値を読み取り、問題を解決する過程やその結果を式に表すこと。</li> <li>・課題解決の方法や理由を説明すること。</li> <li>・学習してから時間がたっていることや、近ごろ学習したことなど、積み重ねの少ない内容の定着度が低い。</li> </ul>

## 中学校

### 国語

- ・資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと。
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約すること。
- ・文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えること。
- ・文脈に即して漢字を正しく書くこと。

### 数学

- ・数量及び数量の関係を文字を用いた式で表すこと。
- ・式とグラフの特徴を関連付けて理解すること。
- ・問題文の長い文章問題を正しく読み取って解くこと。
- ・筋道を立てて考え、証明すること。
- ・学習してから時間がたっていることや、近ごろ学習したことなど、積み重ねの少ない内容の定着度が低い。

# ☆子どもたちの「学ぶ力」を育てるための各学校での取組☆

分析結果を受け、各校で次のような取組を考え実施します。

## 小・中学校でつなげる

### 共通の取組



#### ○子どもたちが主体的に学ぶ授業にするため、校内研究の充実を図ります。

※「校内研究」とは…学校の教職員が、各自の授業力の向上や、学校全体で行う教育活動の改善を目的に、相互で実践を提案・分析し合う研究会のことです。

##### (小学校での取組)

- ・児童が「読みの視点」を獲得し、「自分は読めている」「もっと読みたい」「読むことって楽しい」と思える授業づくりを通して、自ら「読みたい」と主体的に粘り強く取り組む児童の育成をめざした『授業研究』を行います。

##### (中学校での取組)

- ・個々の生徒への支援をクラス全体に広げることで、どの生徒にとっても分かりやすい授業を実現し、学びを豊かにしていくという「授業のユニバーサルデザイン」の考え方を大切にした授業改善に取り組みます。
- ・生徒が学習を見通し、自らの学びを調整したり、自己の変容をつかんだりすることができる振り返りを大切に、学ぶことの意義や楽しさを感じ取り、自ら粘り強く学び続ける生徒の育成をめざした『授業研究』を行います。

#### ○読書活動を推進します。(家庭との協力)

##### (小学校での取組)

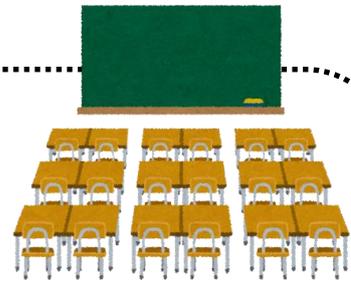
- ・読書タイムや読み聞かせを定期的に行い、学習内容と関連した本を教室に揃えるなど本との出会いを設定します。そのうえで、読書週間を設定したり、週末に家庭で本を読んでもくる「週末読書」を行ったりすることで、家庭での読書習慣の確立も見据えた取組を児童の発達段階に応じて行っていきます。
- ・学校図書館や町立図書館を計画的に活用し、児童の主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実を図っていきます。

##### (中学校での取組)

- ・朝読書（MT）の時間をさらに充実させるため、生徒が自分の興味に合った本と出会えるような書籍の紹介など環境の整備を行います。
- ・家庭学習の計画書である「マナログ」を活用して、主体的な家庭学習を促すとともに、家庭でも読書をする時間が増えるように指導していきます。

## 各学校の独自の取組

### まなづる小学校



#### ○文章を粘り強く読む児童を育成します。

- ・国語では、長い文章でもあきらめなくて最後まで読むことを指導します。また、意味調べを行うことで語彙を増やし、場面を豊かに想像できる子を育成します。
- ・算数では、問題文を読み、場面を理解できるように絵や図を用いることを指導します。

#### ○既習事項（アイテム）を活用する力の向上を図ります。

- ・児童の既習事項の定着状況を確認し、既習事項との違いから考えることができる学習課題や、既習事項を活用し考えることができる学習課題を設定します。
- ・既習事項を活用して考えるための「視点」を明確にすることで、児童が「読んでみたい」「解いてみたい」「考えてみたい」という思いをもつ授業づくりを大切にします。
- ・自分の気持ちや考え、分かったことなどを文章で表現する活動を大切にします。

### 真鶴中学校

#### ○「書く力」「文章を粘り強く読む力」を伸ばします。

- ・読書を推進するとともに、長い文章でもあきらめなくて最後まで読むことを指導します。また、必要な情報を適切に取り上げ、文章と図表を結び付けて読むことができるように指導します。
- ・「書く」ことの習慣化を図るとともに、書いた文章の感想や意見を友達と伝え合ったり、個々に添削したりして、自分の文章の課題やよいところを見つけられるようにします。

#### ○基礎的知識の確実な習得ができるようにします。

- ・数学では、授業で1～5問程度の計算問題を繰り返し扱い、基本的な問題を素早く正確に解けるように、振り返りと学びなおしを行います。

#### ○自ら英語を学ぼうとする生徒を育てます。

- ・生徒自身が到達すべき目標を自覚できるように見通しをもたせ、自らの成長を実感し、励みとできるような指導を計画的に行います。
- ・授業だけでなく、学校のあらゆる場面で英語を使ったり、英語に触れたりする機会を増やします。また、デジタル教科書などを利用し、家庭でも英語を聞いたり読んだりするよう促します。

### 真鶴町教育委員会の取組

#### ○各学校の子どもたちの「学ぶ力」を育てるための取組を支援します

- ・支援員・専科教員などの人的支援や、ICT機器などの物的支援を今後も継続します。（他市町に比べ、児童生徒の比率に対し、多くの支援員が児童・生徒の支援に入っています。）
- ・一人一台端末を利用した学習の充実のため、学習ソフトの導入などの支援を行います。
- ・職員に対する研修会を行ったり、研究会で助言をしたりするなど、学校の学力向上に向けた指導力の向上を支援します。

～子どもたちの「学ぶ力」を育てるために、

学校と家庭が協力して取り組みたいこと～

### ～特に大切にしてほしいこと！～

- ☆ 子どもたちと対話する時間を多くもちましょう。その日の出来事、学校で学んだこと、将来の夢について等、子どもたちの思いを受け止め、共に過ごす時間をつくり、対話をしてください。
- ☆ 家庭学習の習慣化に力を入れましょう。先生や保護者、子どもたちとよく相談をして、できることからステップアップして進めていきましょう。  
※「家庭学習のてびき（小学校）」の配付や「マナログ（中学校）」など、子どもたちが自分の力で家庭学習を行えることをめざした取組は継続します。
- ☆ 本に親しむ環境（時間・場）をつくりましょう。本の読み聞かせや、家族で共に読書をするなど、本を通してのコミュニケーションを図ってください。
- 結果よりも、子どもたちが努力していること、頑張っていることの過程を大いに褒めましょう。
- 各家庭に配付した「みんなで守ろう 携帯・スマホ・ゲーム機等のきまり」を使って、ゲーム、スマートフォン等の使い方や使う時間などのルールについて、さらにスマートフォン等についてはフィルタリングの措置について、保護者と子どもとで相談しましょう。

※ ☆印は「重点項目」

◎さらに以下のことにも取り組んでいきましょう。

#### ～心身共に健康的な生活習慣を身に付ける～

- ・ 「早寝、早起き、朝ごはん」を心がけ、子どもたちの生活リズムを整えましょう。
- ・ 読書の時間（「読み聞かせ」を含む）をつくりましょう。
- ・ 体を動かして遊ぶ、スポーツに親しむことができるような機会をつくり、子どもたちに運動する楽しさを味わわせましょう。
- ・ あいさつを気持ちよくできるよう、大人から進んであいさつをしましょう。

#### ～自尊感情（自分を大切に思う心）を高める～

- ・ 子どもの「その子らしさ」を認めていきましょう。
- ・ 子どもたち自身が「自分で頑張れること」について考える機会をつくりましょう。
- ・ 子どもとの共有体験（共に過ごす、活動する）の機会を多くもちましょう。  
（一緒にいる安心感が子どもの心を育みます）

#### ～規範意識（きまりやマナーを守ろうとする心）を育てる～

- ・ きまりや約束を守ろうとする子どもの姿を認め、大いに褒めましょう。
- ・ 人と人のつながりが感じられる体験を増やし、子どもたちが感じたことを受け止めましょう。